



小さき群

救主降世2013年8月号 第86号

2013年度北海道教区宣教目標

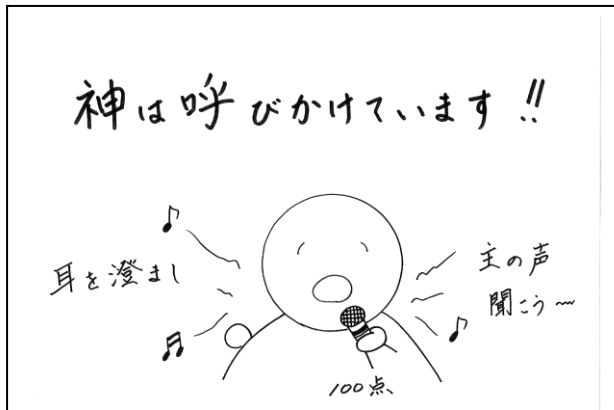
『確かに未来はある あなたの希望が断たれることはない』

箴言23章18節

つむじ先生は何をみていたか

大野 耕一

先日、精神科医であり、作家であったなだいなださんが亡くなりました。家では自由学園と縁のある「婦人の友」を購読しており、かなり主婦向けの内容のなかで「つむじ先生の処方箋」を読むことを楽しみにしておりました。「老人党」をたちあげ、つむじ曲りを自称していたなださんの自分流のメッセージは年をとっても、がんになってもなんら変わることなく、7月号も最終原稿であることはなんら断りなく、風のようにいなくなってしまうまいりました。前回書かせていただいた大鵬親方とは違い、一回もお目にかかったことはありませんが、ファンとして一言つぶやかせていただきます。



いには共感します。

また、地域医療に関しても行政と切り離れた地域自治を主体とする複合医療システムを構想しています（ま、もともとお役所ぎらいは徹底していましたが）。このなかで、画像診断システムを通じて地域にいても高度な画像診断を可能とするコンピュータネットワークシステムや予防医学の重要性についても強調されています。1970年に40年後の現在をほぼ正確に予想していることに驚かされます。いわゆる世間の常識にとらわれない「常識哲学」に立って物事の本質を考える姿勢が未来を予見するうえで役に立つであろうと思われる。

現在の外科治療の最前線である手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」や、ご自身の向き合った難治癌の終末期医療に関してつむじ先生

のメッセージをもっと聞きたかった思いがしました。

医療に関するつぶやきも多かったですが、1970年に初版となった「お医者さん」（中公新書）という本のなかで将来の医療社会のありかたを問いかけています。これからの医療を（あなたたちは）どうしたいのか、つむじ先生は問いかけます。医療者の教育に関しては医療者（医師、看護師、臨床工学士などのコメディカルがいっしょに学ぶシステムにして、6か月程度してから専門に分かれるシステムを提言しています。このなかで、早期実習を通じてすべての医療職を志す学生に看護を経験させる必要性を説いています。患者の目線で見れば、もっとも身近で信頼できる存在の看護師の仕事をもっと経験していいのではないかとの思

季節の風

わが裡うちに

十七歳の

終戦日

八月十五日は終戦記念日。私は十七歳であった。不戦の誓。平和への希求は永久（とわ）に変わらない。

原発学習会

船津房子

参院選挙の前日、礼拝堂で原発の学びの会がありました。原子力関連のお仕事に携わっておられた尾関さんは、スライドを使い、原子力発電のしくみ、危険性、事故と影響、被爆の影響、子ども達を守る方法など、広範囲にわたり、解りやすく説明して下さいました。一番の衝撃は、被爆の影響を受けた奇形児の写真。私は正視することが出来ませんでした。

人間が作ったものに、安全神話など存在しなかったのです。現に、北海道では最近、列車の不具合が頻繁に起こります。人間の思い上がりに神が怒っているのかもしれませんが。

今回学習したことで、一步踏み出しました。私の原発反対の意思表示は、選挙ではっきりとしました。しかし、選挙結果を見る限り、脱原発が遠のいたように思えて仕方ありません。



原発に必要・不要の様々なご意見があるのは解るのですが、私たちが見聞きするのは事業者側の情報しかないのが現状です。疑問があってもどこに、誰に尋ねればいいのか？最近も汚染水の漏れ出しが意図的？に選挙後に発表されました。

上映会「福島 六ヶ所 未来への伝言」
日時:2013年8月3日(土)開場 18:00 上映 19:00
場所:とかちプラザ 2階 視聴覚室
前売り 1000円 (当日 1200円)
チケットは教会の尾関さんにお尋ね下さい。

7月の教会委員会の報告・決議

1. 秋季墓地礼拝を9月29日とする。
2. 河野マリ子さんから電子オルガン寄贈される。
3. 中断している読書会を再開するが、引き続き福音書の学び会を始める。
4. 今年度の野外礼拝は中止とする。
5. バザー収益金の奉獻先は昨年と同じ。

今後予定される行事

- 8/15-18 ユース・アッセンブリー
(室蘭聖マタイ教会)
(昨年は帯広で環境整備を奉仕して下さいました)
- 8/24-25 道北4教会合同礼拝(稚内)
- 9/4-5 教区婦人会総会(札幌キリスト教会)
- 9/23 帯広聖公会バザー
- 10/11~13 教区礼拝研修会(当教会)
- 11/22-23 第72(定期)教区会
- 12/22 美唄・岩見沢合同礼拝

ハレルヤ農園便りNO.4

夏本番！作物たちにも神様の思召しに沿うのもいれば、どうも沿わないのもいるようで、グングン葉を広げ「成ってやるぞ〜」とばかりに勢いをみせているのが、ジャガイモ類、とうきび、トマト、カボチャ、蔓あり隠元などです。反対にあまり芳しくないのが豆類で、蒔いた種の6割程度の発芽でした。雑草だけは全くお願いもしていないのに次から次へと生えてきます。でき秋を想像すれば草取りもまた楽しからずや..。

といったところでしょうか。いつも農園脇の草刈りご奉仕いただいている高橋小作人さんに感謝！！

ハレルヤ農園 小作人 橋本

作物の成長に写真が追いつきませんので、畑の姿は皆さんのご想像で

十勝キリスト者平和の会のTPPの講演会

日時:8月15日(木)13時30分から
会場:メノナイト教会 西7南17 宮脇書店隣り
講師:三島徳三さん(北大名誉教授。農業経済)
札幌聖ミカエル教会の信徒さんです。
内容:TPPをめぐる問題。農業ばかりでなく、医療や福祉の面でも影響が指摘されています。
参加費:500円(会場で)

礼拝研修会のお知らせ

帯広を会場に礼拝研修会が計画されています。これまでは、礼拝を信徒の司式と奏楽とに分けて研修会を重ねてきましたが、一緒に行うことでより深く理解して頂くためにプログラムを組み込んでいます。

難しい研修をする訳ではありません。礼拝を様々な面から楽しく勉強しませんか。幸いにも電子オルガンが寄贈された、この機会です。是非とも、ご参加下さい。詳細が決まり次第、お知らせします。



東豊中ミカエル教会信徒卯野公子さんより贈呈された「主の祈り」の額装が木末さんのご奉仕により出来上がりました。礼拝堂に掲げています

電子オルガンが寄贈されました

双葉幼稚園の臼田時子園長の姪御さんである河野マリ子さん(渋谷聖ミカエル教会信徒)から電子オルガンの寄贈を受けました。従来のリードオルガンと併せて礼拝音楽が一層豊かになることでしょう。



日本で国産初の教会用電子オルガンである“クログトーン”です。素晴らしい音色がここから出てきます。



ニヤニヤしている訳ではありません。嬉しくて、楽しくて、思わず笑みがこぼれるんできると言う斉数君。でも、さすがというか、直ぐに曲を弾きだしました。その際の油断した表情です。

教会バザーのお知らせ

- ・開催日：9月23日(月・祝) 10:00～13:30
- ・会場：帯広聖公会幼稚園
- ・目的：収益の一部を『パレスチナ・ガザ地区の子ども達』(生活・教育・医療の働きの為)
ガザ地区は、国連からの支援物資も途絶えがちの地区です。日本聖公会は、政治的・宗教的信条に関わらず地域の病院やコミュニティを応援しています。

お願い：ご家庭で眠っている衣類、家庭用品、日用雑貨などをご寄贈下さい。

集める期間と場所：

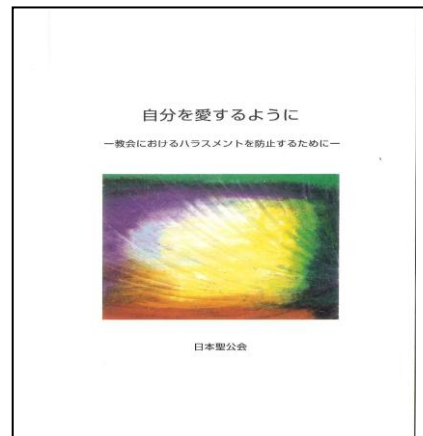
8月12日(月)～9月14日(土)

8:30～15:00

帯広聖公会の玄関内に入れて下さい

◎ハラスメントを考える冊子があります

『自分を愛するよう』
一教会におけるハラスメントを防止するために



パワハラ、セクハラ等は日常で見聞きする嫌な言葉です。でも、「神の愛」を信条とする教会では関係ないとお思いでしょうか、気付かずに起きているかも知れません。そのような参考事例をこの冊子は教えてくれます。

日本聖公会では当初、女性へのセクハラを防止することを目的としてその為の機関、窓口を設けました。しかし、教会の中にも実は人間の尊厳を傷つけてしまう事象が存在したのです。

この冊子はまだ若干ありますが、是非ご一読欲しいものです。聖餐式の懺悔で『思いと、言葉と、行いによって、云々』と言っていたことが如何に言葉だけであったことを反省しました。

編集後記

政治家にとって世間の評判というのはとても大事なものらしいです。もっとも、当選さえすれば、汚職やスキャンダルも“襖を受けた”とばかりに無かった事にしてしまう“欺きのマジック”が存在します。

55人もの子どもをつくった11代将軍の徳川家斉は、朝廷から太政大臣に任命されました。家斉は最初は「ご辞退したい」と謙虚に回答したのですが、朝廷は天皇が決定した事を辞退してはならないと再度就任要請。断りきれない家斉は引き受けました。家斉は謙譲の美德を備えた人物との評価もありました。ここまでは武家伝奏(幕府との連絡や交渉を担当)の公家がつけていた日記「国長卿記」に残されているもの。

しかし、しかし、実態は、事前の根回しで「一度は辞退するポーズをするので、そこんとこヨロシク」とやっただけです。しかも、しかも太政大臣になりたいと言い出したのは家斉自身。もっとも朝廷にしてみれば、そんなことは前例のない事。全ては前例に基づいて行われるのが仕来りの朝廷。大いに困惑。さらに家斉は略式に行われたり、途絶えていた儀式や神事を再興してくれた恩人。更には焼けてしまった御所も平安時代の規模にまで立派に建替えてくれた大恩人。止むを得ず願いを受け入れたと言う次第です。これは時の関白の「鷹司政道通日記」に書かれています。ことほど左様に、将軍といえども世間の評判は大いに気になる処なんですね。歴史史料と言うものは読み方を間違えると真逆の理解になる恐ろしさがあります。

芥川龍之介の『藪の中』では当事者の証言が全て食い違うことで真相は不明なのですが、福島での原発事故でも立場によって発言が違ってきます。まして津波の高さがあれほどになるとは前例が無いと、前例主義も保身の道具。私たちは、目を見開き、耳を立てて出来事をしっかり記憶しましょう。